

	<p>について記録するなどの調査法がある。</p> <p>目視観察法では、測線上を幅1 m程度を目安として観察する。測線を代表する群落については、必要に応じて断面図を記録する。</p> <p>②坪刈り法</p> <p>各側線の植物相を代表すると考えられる場所にコドラードを設置して「坪刈り」を行い、コドラード内（1 mの方形枠）のすべての海藻・海草類を採集しホルマリンで固定し、種の同定及び湿重量の測定を行うなどの調査法がある。</p>
植物プランクトン	<p>植物プランクトンの採取は、採水法が一般的である。ただし、調査地点の水深が深い場合や透明度が高い場合は、複数の深度で採水するのが望ましい。</p> <p>バンドン型採水器等の採水器を用い、表層（水面下約 0.5m）より海水を一定量（プランクトン量に応じて1～5 ℓ程度）採水し、ホルマリンで固定し、種を同定、種別に細胞数の計数、沈殿量の測定を行うなどの調査法がある。</p> <p>なお、種名まで同定できない場合には上位の分類名を使い、「○○属の1種」、「△△科の一種」としてよい。</p>

(3) 調査結果

調査結果については、調査地点等の位置図、海生植物の確認種リスト、出現状況、貴重な種及び注目すべき生息地の確認地点、状況等について図表等にまとめる。

ア 海生植物の確認状況

現地調査結果と資料調査結果とを合わせて、海生植物確認種リストとして一覧表にとりまとめる。

海生植物確認種リストは、種類数が多い場合は、調査地域全体の海生植物の出現状況を把握するために、海生植物の調査項目ごとに優先種、分類種別（綱のランク等）に確認種数等をまとめ、調査地点、調査時期ごとに整理し季節別出現状況を一覧表にまとめる。

海生植物確認種リストの作成に当たっては、科等の配列順序や種名について植物分類学上広く認められている文献等に準拠し、使用した文献名を記述する。科の配列順序、種名（和名、学名）については「日本産海藻目録」（藻類学会誌1995）、「日本海洋プランクトン図鑑」（保育社1991）等を参考にする。

また、調査結果を基に調査地域の海生植物相の特徴についてまとめる。

イ 主要な種の生育状況

主要な海生植物の確認地点を各調査項目ごとに図示し、主要な種の生育状況、生育環境の特徴を確認地点ごとに表にとりまとめる。また、地形断面図、鉛直分布図を作成し、必要に応じて写真を添付する。これらの結果を基に、調査地域の海生植物の生育状況の特徴について、一覧表にまとめる。

なお、重要な海生植物が確認された場合には、確認地点を図面上に記録するとともに、生育状況等について、一覧表に整理する。

ウ 干潟、藻場、珊瑚礁等の分布と生育環境の状況

干潟、藻場、珊瑚礁等の分布状況を図に示し、生育する海生植物や生育環境の状況についてまとめる。

3 調査地域

調査地域は、対象事業の種類や事業規模、地形や水深、潮流による水質汚濁物質等の輸送の範囲、海生植物の分布特性、温排水拡散推定範囲を包含する範囲、取水口全面の海域を考慮して設定する。特に藻場、干潟、サンゴ群集などはその広がり十分に留意し、調査範囲を設定する。

調査対象地域には、影響の及ぶ範囲や植物の生育環境特性から見たかかわり等を踏まえて、事業地の周辺地域を必要に応じて含めるものとする。

また、地域概況調査により、事前に周辺に対象事業の影響を受けるおそれのある重要な種及び重要な群落の分布することが明らか場合は、それを含むように調査地域を設定する。

4 調査地点

調査地点は、調査地域内の海生植物相を把握するために、対象とする海生植物の生育特性を踏まえ、生育海生を網羅し、環境影響を予測及び評価するために適切かつ効果的な調査地点を設定する。

また、調査地域及び周辺の地域に干潟、藻場、サンゴ群集など環境影響を受けやすいと考えられる対象が存在する場合は、それらの位置等に配慮して調査地点を設定する。

なお、重要な種及び注目すべき生息地については、資料調査結果により確認された地点及び生育が予想される場所において調査地点を設定する。

5 調査期間等

現地調査の期間等は、海生植物の生育・分布状況、季節変動を把握出来るような期間、時期及び時間帯に行い、原則として年間を通じ各季節1回以上行うものとする。

潮間帯生物（植物）については、あらかじめ潮位表などによって干潮、満潮時刻等に配慮し、調査日程、調査時間を設定する。

海藻草類については、冬季に繁茂し、植物プランクトンは春季から夏季に大増殖するなど、海生植物によって生活史が異なるため、これらを十分考慮し、調査時期を設定する。

干潟及び藻場については、繁茂期を中心に調査を行い、必要に応じて衰退期を加えるなど藻場の消長に配慮する。

干潟については、干潟事態が干出する大潮時の干潮時に実施するなど調査時期、時間に配慮する。

サンゴ群集については、任意の時期に1回行う。

12-11 予測

1 予測の基本的な手法

予測結果は、各予測項目について、事業による影響を予測時期ごとに整理する。

(1) 工事の実施

工事の実施に伴う濁りの発生等による海生植物への影響については、調査結果から予測対象とする海生植物及びその生育に関する情報（分布状況、生育状況、生理・生態、生活史等）と工事の実施による水質等の予測結果に基づき、生育環境の改変の内容、箇所及び程度について、予測対象とする海生植物ごとに類似事例の引用、解析又は学識経験者等の専門家の意見を参考に定性的に予測する。類似事例の引用